



幸せを探しているあなたに

殺す力、生かす力

神様の力はいつ現れるのでしょうか

殺す力 未来に対する不安と、わけの分からない霊的な虚しさを感じている現代人は、自らの脱出口を探し回っています。カレン・ホイット (Karen Hoyt) によれば、アメリカ人の約 23% が輪廻 (reincarnation) を信じ、23% は占星術 (astrology) を信じ、また 25% は非人格的エネルギー (nonpersonal energy) や生命力 (life force) を信じているということです。また、人々がいちばん簡単に訪ねて行く所が占いの店なのですが、はたして、こういうものは人間に真の祝福を与えられるのでしょうか。占い師の話を聞いてほろびた人が多くいます。ある占い師は「自分が仕えている霊が自分に与えた命令だ」という遺書を残して自殺することさえありました。あなたは霊を受けてこそ、家が安らかになると言われたのですが、引続き子どもにまで同じ問題が起き始めるのです。それで、大部分の占い師の子どもが失敗することを見ます。悪霊は、人々に祝福を与えることはありません。結局は、苦しみと失敗へと追いやって行くのです。悪霊がもたらす力は、人生を殺す力です。

生かす力 それでは、真の力、真の祝福はいつ現れるのでしょうか。まず確かに分っていなければならない七つの事実があります。本来の人間は神様のかたちとして創造されました。人間は神様と交わることができる唯一の存在であり、神様の中でだけ真の安やらぎを味わうことができます。ところで、悪魔の誘惑に負けて罪を犯して神様を離れるようになりました。その結果、神様のかたちが崩れて、その霊は死んだ状態になりました。その時から失敗と死、苦しみが続いて入ってくるようになりました。結局、この世で旅人の人生を送り、故郷 (天国、地獄) に行くようになります。神様は人間に神様のかたちを回復させるために、自ら神様のかたちを持ってこの世に来られ、十字架の死と復活により敵に勝ち、人間が解決できない原罪の問題 (創世記 3 章の問題) を解決してくださいました。その方が、まさに神性と人性を持っておられるイエス・キリストです。すなわち、神様が人間となって来てくださったのです。イエス様は苦しみの中にいる人々に向かってこのようにおっしゃいました。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイの福音書 11:28) 今、あなたの苦しみは何ですか。イエス様は、あなたの苦しみをご存知で、それを解決することを望んでおられます。今、祈りを通してイエス様を受け入れれば、あなたも永遠な神様の子どもになって、新しい人生を始めることができます。

神様の子どもは、今から 3 つの戦いを始めれば良いのです。 最初は、自分自身との戦いです。自分の環境を主に任せて、神様の完全な計画を発見しなければなりません。二つ目は、終わりの時に、最後までだますサタンと戦わなければなりません。天と地のすべての権威を持っておられる主が、今私たちとともにおられます。イエス・キリストが来られた理由は、悪魔のしわざを滅ぼすためです。祈りの答えの権威もイエス様にあります。イエス様の御名でサタンを縛れば、その名の前にサタンは縛られるようになっています。三つ目は、世の中と戦わなければなりません。聖霊が私たちの中に内住しておられるので、聖霊の導きを受けることが世の中に勝つ方法です。また、ただ聖霊が臨めば私たちが力を受けると言われました。神様の子どもになって原罪が解決された時から、すでに祝福は始まりました。苦難、迫害、病気、挫折、どんな環境の中でも、神様の計画を発見して、私の生活に神様の目的と、私がいるところで神様のより大きいみこころを探して祈るとき、神様の力が臨むようになります。私たちは、ただイエス・キリストで満足する時、勝利することができます。なぜなら、イエス・キリストの中に全てのことがあるからです。



地域を生かす希望のあかり 地教会

灯台 Lighthouse 灯台の起源は、夜間航海のはじまりと時を同じくしたと推定されていますが、エジプトの地中海沿岸に沿ってリビア人が塔を立てて火をつけたのが記録に残っている最初の灯台です。世界7大不思議の一つである「アレクサンドリアのファロス」と呼ばれた灯台は BC 3 世紀エジプトのプトレマイオス王朝のときに立てられたのですが、その高さが約 61m(200 フィート)もあったと言われています。韓国に洋式灯台がはじめて建設されたのは、1903 年、インチョンのパルミド灯台です。白い灯台(緑色のあかり)は出港、真っ赤な灯台(真っ赤なあかり)は入港する方向を知らせて、黄色と黒い色が混ざり合った灯台は周辺が暗礁地域であるから注意しなさいという意味です。韓国には 600 個を超える灯台が設置されていて、昔も今も、一日も欠かさず、船便を無事に案内する「希望のあかり」としての役割を果たしています。

地教会 Regional Church それなら、暗やみに陥って、あらゆる悪行により苦しんでいる世の中の現場を照らす希望のあかりは何でしょうか。今、重職者をたくさん立てなければならぬ大きい理由があります。地域を生かすためです。現在、成功の列にいる人も、教会に通っている信徒も、個人的に困難にあつてさまよっているのに、彼らを手助けしようとするなら、疎通できる場所を作らなければなりません。そして、未信者が来ることができるシステムがなければなりません。これが地教会です。そして、最も重要な私たちの次世代に最も自然に会える現場が地教会です。

それでは、方法をどのようにすれば良いのでしょうか。長老が直接することができないなら、できる教役者を招けば良いのです。あるいは、伝道資料を活用すれば良いのです。このようにするならば、本当に私が直接証人として立たなければならぬという答えが出てくるようになります。これが方法です。例えば、ソウル数千ヶ所に重職者が入って、未信者個人と信徒と次世代を助けられるみことばをあちこちで伝えてあげるので、重職者は神様に油を注がれたしもべです。旧約時代に王、預言者、祭司にだけ与えた祝福を神様は私たちにくださいました。これを長老の心に抱いて、あちこちに福音の光を照らすように願います。これが第二のキム・キルテ(女子中学生殺人犯)を防ぐ道で、神の国を成し遂げる道です。

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どものお祈りの五つの確信

- 1 **救いの確信**：イエス・キリストを信じて受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、Iヨハネ 5:10~13)
- 2 **祈り答えの確信**：神様の子どもはイエス・キリストのお名前前で何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 **導きの確信**：神様は聖霊で私の中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)
- 4 **赦しの確信**：私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さい(Iヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 **勝利の確信**：救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、Iヨハネ 5:4)

神様の子どものお祈りの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できま

すように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

私の人生ストーリー

STORY

世の中には三種類の人生があります。
最初は、あってもなくてもよい人生、二つ目はあってはならない人生、三つ目は必ずなければならない人生です。
それなら、あなたはどんな人生を生きていますか？

カン・ヨンウ博士の人生ストーリー 人類のために大きい業績を成し遂げた人 127 人を選んで、記念して展示するルーズベルト記念館に選ばれた人物、今、アメリカのホワイトハウス国家障害委員会政策次官補をしているカン・ヨンウ博士は、本来、裕福な家庭で生まれて、幸せな幼い時期を送っていたのですが、中学校の時期、突然のお父さんの死と、どこからか飛んできたサッカーボールが顔に当たって失明するようになり、その衝撃によるお母さんの死によって、突然、孤児になってしまいました。また、両親の代わりにしていた姉の過労による突然の死まで、わずか 3、4 年の間に連続的に起きた不幸の中で、彼は絶望の奈落に落ちることなく、そのかわりに夢を持ちました。後に彼は「神様が私を断崖に連れて行って、飛び降りなさいと命令された。そして、飛び降りた瞬間、私は青空をゆうゆうと飛ぶことができる翼があることを知ることになった」と告白しました。

ジョン・バンヤンの人生ストーリー 1628 年、イギリスで生まれ、ピューリタンの妻の影響で 1635 年クリスチャンになったジョン・バンヤンは、当時、イギリス国王であったチャールズ 2 世から、一般信徒が許可なく、みことばを伝えたという理由で、1660 年に監獄に行くようになりました。もし、みことば伝えることを止めたら、赦免するという提案がきたとき、バンヤンは「もし私が今日出獄したら、明日、私は神様の助けによって、また福音を伝えるだろう...」その結果、バンヤンは 12 年間の刑を受けなければならなかったのですが、むしろ、その中で不朽の名作である「天路歷程」を残す機会となりました。1672 年に釈放されたバンヤンは、また現場でみことばを伝え始めたのですが、そうなった動機について「私が神様のためにしなければならない特別なこと、みことばを伝えなければならないという大きい飢え渴きが私のたましいの上に臨むのを見た...」と告白しました。

ヘレン・ケラーの人生ストーリー 「見ることができず、聞くことができず、話すことができない子どもを世話する人を求む！」アンはその子どもに自分が受けた愛を渡してあげることを決心しました。人々は教えられないと言ったのですが、アンは話しました。「私は神様の愛を確信しています」結局、愛でその子どもを 20 世紀最大奇跡の主人公に育てました。その子どもが「ヘレン・ケラー」であり、その先生がアン・サリバン(Ann Sullivan)です。アンは、ヘレンと 48 年間一緒にいてあげました。ヘレンは「私が三日間、見る如果能够ならば(Three days to see)」という文章で、このように告白しました。「はじめの日、私は親切と謙そんと友情で私の人生を価値あるようにしてくれたサリバン先生を訪ねて行って、今まで指先で触るだけで知っていた彼女の顔を何時間もぼんやりながめながら、その姿を私の胸の中深くに大事に保管しておきます。(中略)家に戻って、私をこの三日間だけでも見られるようにくださった神様に感謝の祈りをささげます」ヘレン・ケラーが告白して「視力がない人よりさらにかわいそうな人はビジョンがない人だ」と言いました。

それなら、私の人生のストーリーは何でしょうか。

「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります」(ヨハネの手紙第三 1:2)

Jesus is
THE CHRIST

名前を呼んでみてください

南太平洋のオーストラリアを初めて訪問した西洋の人たちが特異に見える動物を変なもののようにながめた。鹿のように見えるが角はなく、2本の足で飛び回り、お腹の袋に子を入れて育てることが不思議に思えるだけだった。原住民にその動物の名前は何かと尋ねたところ「カンガルー(Kangaroo)!?」と言ったそうだ。それで、その動物の名前をカンガルーと呼んだが、後ほど知ってみたらカンガルーという言葉は、原住民の常用語で「知らない!?’という意味だったのだが、すでにそのように名前を呼ぶようにしたので、今まで常用されている。

すべての事物に名前をつけることは、人が持っている知恵の表現方式だ。どこの国の山でも川でも谷間でも動物と植物にもみんな名前があって、その名前前で区別される。名前が持っている多様な意味は、その存在の価値を新しく表わす貴重なことになる。

それで、特に新しい命が生まれるとき、占い師に依頼しても良い名前を持つことを人々は望むのだ。しかし、真の名前の価値は名前の字から出るのではない。名前は、その人の存在を表わして確認する手段の他には他の意味はないと思う。ただ、呼ぶのに便利であるし、人の価値を説明するために定めれば良いのだ。良い名前を持ったので高い官職に上がったり、あるいは悪い名前のために犯罪者に追い出されるということは、悪い占い師の「結果運命主義」に過ぎない。

未来をあらかじめ予想できる人は、この世の中にだれもいない。本当にそのことが可能ならば、有能だという占い師がロトの宝くじをみな一人占めするはずであり、雇った占い師に良い名前をつけてもらって数年待てば自然に大統領になるはずだが、現実はそのようではないのだ。公然と自分の罪悪のゆえに未来を恐れる個人が占い師を尋ねて、自分の威勢を仮装しようと名前を変えるので、すでに結論が出たあとの内容を繰り返し広げるのだから、占い師は理由のない恐れで民を惑わすという先祖の評価は正しいのだ。本当に覚えておかなければならないことは、未来を知ることは、どんな宗教でも、予言者や魔術師にでも、決して許されていないということだ。結局、普通の人の人生は、オーストラリアの知らない動物の

名前がカンガルーだったように、これからの事を知らない自分の姿を「カンガルー!」と投げってしまうカンガルー人生と別段違いはないのだ。

しかし、人間の今日は未来のための準備の日々だ。イエスは、解決できず、解決されることもない問題を解決しようとする世に来られ、十字架でその道を開いた。人々が道を知らないので、自分を道だと説明して、だれでも自分の名前、すなわち、イエスを呼ぶ人々に永遠な祝福の未来を約束された。分かって見れば特別なものでもない占いの結果に心を寄せようとしているのだが、単純に霊的事実を認めて「イエスはキリストだ」と告白しさえすれば、人生のすべての問題はその瞬間に終わるのだ。とてもやさしいので、これを福音と言う。もし、あなたが今、イエスの名前を呼ぶなら、あなたの人生はカンガルーと同じではなく、あなたの名前がいつの間にかいのちの書に記録された美しい名前として呼ばれることだろう。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)



イラスト:ユン・スルギ

*相談したい方はこちらまでどうぞ